
私の一番大好きな人

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の一番大好きな人

【NZコード】

N5928A

【作者名】

ヨーリ

【あらすじ】

志保は、新一がなかなかプロポーズしてくれない事を悩んでいた。
そしてある日の夜、2人の関係を進展させる事件が・・・

私の名前は宮野志保。現在、帝丹大学の大学院生。

私は今、つき合っている人がいる。

工藤新一君っていう、無鉄砲な男の子。

彼は私の命の恩人で、私も彼の命の恩人。

そんな縁で、私達はついに彼氏彼女の関係になつた。

でも、私は今、困っている。

新一君が、なかなか私にプロポーズしてくれないのだ。

新一君は刑事の仕事と学業の両立で、なかなか家に帰つて来ないし、私は私で講義が山ほど詰まつていて、なかなか2人きりになるチャンスがない。

私は、早く新一君と結婚したいとつねづね思つていた。

志保

「ふああ・・・後の講義は何が入つていたかしら・・・」

そんな事を言いながら、私はロビーの掲示板に目を通す。

志保

「あら？ 今日、薬学概説、休講だわ・・・」

私は、少しマシになつたと思い、新一君にメールを打つた。

『新一君、今日は薬学概説が休講だつたから、今から家に帰るね。
志保』

私はメールを送信すると、パチンと携帯を閉じた。

志保

「そ、帰ろ！」

私が工藤邸に着いた時、新一君からメールが来た。

『志保、今日はオマエに渡したい物があつてそれを買いに行くから、
先に寝してくれ。 新一』

志保

「はーい！ ルンルン』

私は、少し上機嫌になつた。

風呂にも入り終え、眠くなつた私は、2階に上がつていつた。

志保

「ふああ・・・眠いわ・・・」

私は、そのままベッドに突つ伏し、眠りに落ちた。

それから数時間後、工藤邸に怪しい人影が現れた。
空き巣である。

男は工藤邸に近づくと、呼び鈴を鳴らした。

ピンポーン、ピンポーン。

しかし、志保は未だに起きない。

男はニヤリとし、覆面をかぶつて、工藤邸に忍び込んだ。

男は、懐中電灯で辺りを照らしながら進んでいた。

やがて、2階から志保の眠り声が聞こえてきた。

男はそれを聞くと、またニヤリとし、2階へと上がつていった。

男が新一と志保の寝室に入ると、志保はまだスヤスヤと寝ていた。

男はニヤリとし、ベッドに近づくと、志保の口を塞いだ。

ガバッ！

志保
「ん~っ！？」

「おとなしくしろーー！」

志保は、なす術もなく空き巣に捕まってしまった。

数分後、志保から金のありかを聞き出した男は、物色を始めていた。

志保はヒモで両手両足をグルグル巻きに縛られ、口にガムテープを貼られ口を塞がれて、壁にもたれさせられている。

志保

「う~ん~! う~ん~! ~」

志保は、ジタバタともがいていた。

志保

「う~ん~! う~ん~! ~」

男は、せつせと札束を数えている。

「へへへ、やつぱり工藤優作の家だ・・・金がたんまりありやがる
ぜ・・・」

その男を、志保はふるえながら見つめていた。

志保

「（どうしよう・・・このままじゃ私・・・殺されるかも・・・）」

覆面をしているため、男の顔は見ていない志保だが、彼女の不安はなくならなかつた。

「・・・かと、さうさうズラかるとするかな・・・」

男はそつまつと、志保の方を向いた。

志保

「！」「

男は、ゆづくらと志保に近づいてこべ。

志保

「んつーんんーー！」

志保は、ジタバタともがいた。

「さて、どうしたものかねえ・・・」

男は、ふるえている志保をジッと見つめた。

「 りの娘、けいりんの上玉だよな・・・」

そいつひとつ、男は志保ののど元に手をかけ、持ち上げた。

グイッ。

志保
「 んんっ・・・」

男は、ニヤリと笑みを浮かべる。

「 りんな上玉、りの家の主のモノだけにしてほのせもつたいねえな・・・」

志保
「 んんっ・・・」

「 くくく・・・ちゅうとかわいがつてやるか・・・」

男はそいつひとつ、志保の服に手をかけた。

志保

「 んっ、んんっ、んん~・・・(な、何するのよお~・・・)」

志保はジタバタともがいたが、男はなおもニヤニヤしてくる。

「 へへへ、いい体してみぜ、お嬢ちゃん・・・」

男は、志保の服を脱がせようとす。

志保

「（くつ・・・口を塞がれてなかつたら、かみついでやるの・・・
！…）」

志保は、歯ぎしりしていた。

「さて、この邪魔な物をはがすか・・・」

男は、志保のブラジャーを外そつとする。

志保

「くつ・・・（助けて、新一君！…）」

志保が目を閉じたその時、扉がガチャリと開いた。

「な、何！？」

志保

「（え？）」

男と志保が振り向くと、そこには新一が立っていた。

新一
「困るなあ・・・人の家に勝手に入っちゃ・・・」

「だ、誰だオマエは！…」

新一

「工藤新一・・・探偵さ・・・」

新一君は私に駆け寄り、口のガムテープをはがしてくれた。

ピリリ・・・

志保

「イタタ・・・ケホケホ・・・」

新一君はそれから、手足のヒモをほどきにかかる。

数秒後、私は拘束状態から解放された。

新一

「志保、大丈夫か?」

志保

「新一君! ありがと・・・!」

私は新一君に抱きついた。

新一

「ゴメンな・・・オレが早く買って帰つて来ないばかりに、オマエを怖い目にあわせてしまって・・・」

志保

「ううん、大丈夫・・・ちゃんとあなたが助けに来てくれたもの・・・それより、買って来た物つて・・・?」

新一

「これ・・・」

新一君は、私に何かの箱を渡した。

私は、箱を開けた。

志保

「これは・・・」

中には、キレイな指輪が入っていた。

新一

「これ、婚約指輪だよ。」

志保

「婚約指輪・・・」

新一

「志保、オレと結婚してくれないか?」

私は、目が涙でいっぱいになつた。

志保

「は、はい・・・喜んで・・・」

私と新一君は抱き合ひ、キスを交わした。

それから1ヶ月後、私と新一君は結婚式を上げた。

式には多くの人が詰めかけ、『事件を乗り越えて結ばれたカップル』として「テレビ」でも話題になつた。

その後、私と新一君に2人の子供ができた・・・

7年後・・・イギリス・ロンドン

「ねえ、お母さん・・・お母さんは、今幸せ?」

志保

「ええ、幸せよ、哀子。」

哀子

「お父さん?」

新一

「 もうらん、幸せだよ、哀子・・・」

「 哀子ーー! 向こうでサッカーしようぜーー! 」

哀子

「 あ、今行くよ、一保! 」

私と新一君との間に生まれた双子の兄妹・・・工藤一保と工藤哀子。

2人は今年、ロンドンブリッジジュニアスクールに入学する事になつていて。

志保

「 子供つて、本当にカワイイわよね・・・」

新一

「 ああ、オマエには負けるけどな・・・」

志保

「 んもう、新一君つたら! 」

一保と哀子に、これから先どんな困難が待つて いるかはわからない。

でも、この2人なら、どんな困難も乗り越えて いけるだろう。

何てつたって、私と新一君の子供なのだから・・・

一保と哀子の未来に、幸あれ。

おしまい

(後書き)

どうだったでしょうか？連載作品の続きを考へている時に作った物なので、背景描写がしっかりできてませんが・・・精一杯がんばつたつもりです。

最後に出てきた2人の子供、まず哀子は、ひっくり返すと『口哀』になります。また、一保は、新一と志保の名前をくつつけたものです。

原作では哀は幸せになれないそのので、せめてこの世界では幸せにしてあげようと思つて書きました。

感想も送ってくださいれば、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5928a/>

私の一番大好きな人

2010年10月21日22時18分発行